



#いたこ推し Vol.8 愛友酒造

愛友酒造

「愛友」の名には、「友を愛し、心を開いて語り合う」という温かな願いが込められています。

創業以来大切にしている言葉は「四海皆兄弟（しはいみなきょうだい）」です。「世界中の人々はみな兄弟のように、友と楽しくお酒を飲み交わしてほしい」という創業者の精神を今も受け継ぎ、潮来の豊かな自然と人々に育まれながら、愛友酒造は広く愛されるお酒造りを続けています。

222年以上の歴史

江戸時代、潮来は東北地方と江戸を結ぶ水運の要衝として栄えました。常

愛友酒造

（潮来市辻205）

社長・八代目当主
兼平 理香子さん



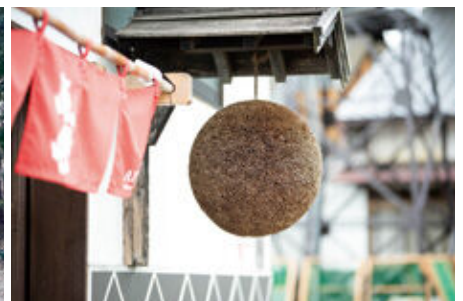
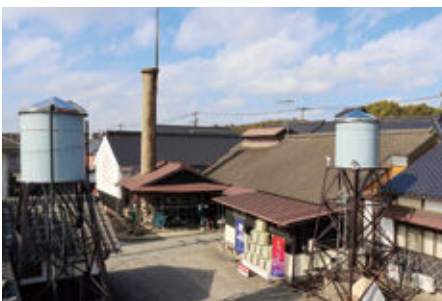
陸利根川を行き交う船、人々の往来、そして花街の賑わい。そんな活気あふれるまちの中で、愛友酒造は江戸時代から「糀友（こうとも）」の屋号で親しまれた糀屋を営み、糀づくりで培った技をもとに愛友酒造を文化元年（1804年）、友七（ともしち）さんによって創業されました。長い歴史の中で受け継がれてきたのは、単なる酒造りの技術だけではなく、

「人とのつながりを大切にする」と。創業者の想いは代々の蔵人へと受け継がれ、地域に寄り添う酒蔵として歩み続けています。

酒造り

酒造りを支えるのは、厳選した酒米と、大生神社の七ツ井戸の一つ「思井戸」の水脈から湧く清らかな水です。地域の自然が育んだこの水は、酒造りに適したミネラルを含み、愛友酒造ならではの味わいを生み出しています。

その品質は鹿島神宮へ奉納される御神酒にも選ばれるなど、高く評価されています。



酒蔵見学

「日本酒を知ってもらおうこと」

約30年前から続く酒蔵見学。始めた当初は「酒蔵に人を入れるなんて」と驚かれることもありましたが。しかし、お客様をご案内し、酒造りを知っていただき、味わっていただく。その体験こそが、日本酒を好きになってもうきつけかけになると気付きました。

「お客様との会話から学ぶことも多く、自分たちのお酒の魅力を改めて知る機会にもなりました。一人でも多くの人に日本酒を身近に感じてもらえたらうれしいですね。」

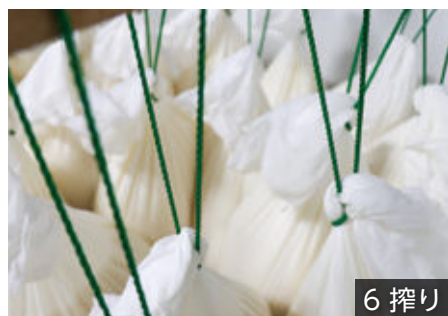
そう話す社長の言葉からは、日本酒の魅力を伝えたいという強い想いが伝わってきます。

みんなで楽しむ

酒を届けたい

今年開催された「222周年酒蔵開き」イベントは、社長が長年温めてきた企画でした。

思い描いたのは、試飲会ではなく、日本酒と料理を楽しむながら、人と人が笑顔で語り合う時間。会場でグラスを交わし、笑顔で会話を楽しむ来場者の姿は、創業から受け継がれてきた「四海皆兄弟」の精神そのものでした。



日本酒は人をつなぐもの

「私にとって日本酒は、人と人をつなげてくれるものです。」酒蔵で生まれ育った社長は、日本酒を通じて多くの人との出会いを経験してきました。

現在は海外での展示会や販売にも積極的に参加し、日本酒と料理を合わせる「ペアリング」の魅力も発信しています。「日本酒が合うのは和食だけではなくありません。ハンバーグやステーキにも合うお酒があります。多岐にわたる日本酒を知り、もっと気軽に楽しんでほしいですね。」

日本酒を特別な日だけではなく、日常の食卓でも楽しんでもほしいという思いでもあります。

SAKE COMPETITION 2026

今年、「純米大吟醸 備前雄町（びぜんおまち）」は鑑評会「SAKE COMPETITION 2026」で純米大吟醸部門の第4位に入賞しました。全国から高い評価を受ける一方で、目指しているのは賞だけではありません。「また飲みたい。」大切な人と一緒に飲みたい。「そんな一杯を届けることこそが、創業から222年以上変わることなく受け継がれてきた酒造りの原点です。」

